

と言いました。子夏が慰めて「人の死生は天命、富貴や地位というのは天が与えてくれるものと申します。君子というものは慎み深くいつも人と付き合うのに恭しい態度で礼義を尽くしている人だから、天下皆兄弟のように接してくれる。だから兄弟がないという事を憂えてはいけない」と。裏にあるのは、兄弟のしたことの痛みを胸に感じていると思うだろうが、自分がやった事のように思って控えめにするというのはしないでよい。兄弟がしたことは自分には関係ないと思って胸を張って生きて行った方が良いですよ、そう思いなさいと慰めているところです。

【六】子張、明を問う。子曰く、浸潤の譖り、膚受の愆え、行われざるを明と謂うべきのみ。浸潤の譖り、膚受の愆え、行われざるを遠と謂うべきのみと。

子帳が「明（賢い・騙されないというものの総称）とはいかなるものですか」と尋ねました。孔子は「浸潤の譖り、膚受の愆え」と答えました。浸潤の譖りとは他人の中傷です。知らず知らずの内に、なんとなく相手を悪く思わせる。膚受の愆えは、今でいえばオレオレ詐欺です。びっくり仰天をさせて物を考える暇も与えず相手を信じ込ませてお金を出させる。無実の訴えという風な言い方にもなります。

じわりじわりと他人を中傷していき、自然と信じ込ませて、びっくり仰天をさせられて騙されたりという風な状態になった時に、相手の話を見抜く。そういう力を持っているものが「明」という。

そういうものに騙されてしまう人間は世の中には多いけれども、遠くを見通してそこら辺を見抜く力、見識をもっているものを遠（えん）という。遠くまで見通す力、この話はどうもおかしいけれども、大局から見てちょっと変だという気持ちが持てるようになったら「遠」という力を持っていると思って良いでしょう。

行われざるというのは目先、今現実に行われていること。今騙され掛かっているというのを見抜くのが「明」。「遠」は先々騙されるような、今じわり始まっている先の感覚。時間差です。